福島県立医科大学 学術機関リポジトリ

FUKUSHIMA MEDICAL UNIVERSITY

Title	Choroidal thickness outside the laser irradiation area after photodynamic therapy in polypoidal choroidal vasculopathy(内容要旨)
Author(s)	菅野, 幸紀
Citation	
Issue Date	2015-03-24
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/632
Rights	
DOI	
Text Version	none

This document is downloaded at: 2024-04-26T09:11:55Z

Fukushima Medical University

論 文 内 容 要 旨

氏名（しめい）	すがの　ゆきのり 菅野　　幸紀
学位論文題名	Choroidal thickness outside the laser irradiation area after photodynamic therapy in polypoidal choroidal vauculopathy （和訳）　ポリープ状脈絡膜血管症に対する光線力学的療法後のレーザー照射範囲外脈絡膜厚

ポリープ状脈絡膜血管症 (PCV)は、日本人に多くみられる滲出型加齢黄斑変性の特殊型であり、黄斑部の脈絡膜新生血管からの漏出、新生血管の破綻に伴う出血によって視力低下、変視をきたす。光線力学的療法 (PDT)は光感受性物質を用いたレーザー治療であり、滲出型加齢黄斑変性において脈絡膜新生血管閉塞、退縮を得ることができる治療法である。光干渉断層計 (OCT)は近赤外光を用いて眼底の断層像を得ることができる検査機器である。我々はOCTを用いてPDT治療前後の脈絡膜形態を観察することで、PCVや中心性漿液性脈絡網膜症に対する治療後に中心窩下脈絡膜厚が20%程度減少することを報告した。今回我々はPDTのレーザー照射範囲外の脈絡膜厚変化に着目した。

37例のPCV患者（男性27例、女性10例、平均72歳）に対してPDTを行い、術後3か月間の視力、中心窩網膜厚、中心窩下およびPDT照射範囲から1mm外側の脈絡膜厚変化を観察した。PDT施行3か月後、視力は治療前平均0.39から0.58に有意に改善し (P<0.001)、中心窩網膜厚は治療前392±170μmから230±110μmに減少した (P<0.001)。中心窩下脈絡膜厚は256±115 μmから3か月後に207±111 μmと有意に減少した (P<0.001)。レーザー照射を受けていない照射範囲外側1mmの脈絡膜厚も240±92 μmから209±86 μmへと有意に減少していた (P<0.001)。

PCV患者では、脈絡膜血管透過性亢進がしばしば見られ脈絡膜厚は健常人に比べ肥厚している。PDT治療は、脈絡膜新生血管閉塞という直接作用だけでなく、正常組織である脈絡毛細血管板、脈絡膜中大血管にも影響を与えると推定されている。これまでの研究で我々が報告したPDT後の中心窩下脈絡膜厚の減少は、脈絡膜血管透過性亢進の抑制による組織間液の減少や、毛細血管閉塞、血管のリモデリングによる血流減少を捉えていると考えられる。本研究でPDT後にレーザー照射範囲外のより広範囲で脈絡膜厚が減少したことから、PCVに対するPDTはレーザー照射範囲だけでなくより広範囲の脈絡膜組織に影響を及ぼしていることが明らかになった。検眼鏡による眼底検査で詳細な脈絡膜所見を得ることは不可能であり、従来インドシアニングリーンを用いた蛍光眼底造影検査でしか脈絡膜血流動態を捉えることができなかったが、OCTはより低侵襲で短時間に脈絡膜形態を観察することが可能であり、新たな脈絡膜評価法として有用と考えられた。

※日本語で記載すること。１２００字以内にまとめること。